



コペンハーゲン通信12

当会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。「EUの中で最も競争力のある経済」（世界経済フォーラム）との評価を受けるデンマークからの現地報告をお届けします。本連載は今回が最終回となります。ご愛読ありがとうございました。

齋藤 弘憲

在デンマーク日本大使館一等書記官
(経済同友会事務局より出向中)



デンマークに暮らして

「この小国の決して侮るべからざる国であることがわかる」(内村鑑三『デンマルク国の話』)

一約1世紀前にこの言葉を残した彼が今を生きる人であったなら、現代デンマークがグローバル化への対応と高福祉・高負担を両立させて「世界一幸福な国」を築き上げた秘訣をどう語るのだろうか—そんな想像をしつつ、本連載では私なりの「デンマルク国の話」を書き綴ってきました。最終回の今回は、2年間のデンマークでの暮らしを振り返りつつ、身近な具体例からデンマーク人の国民性をご紹介します。

【優しさと節度】 着任当時、生後9カ月の娘を抱えたわが家の関心は、慣れぬ異国での育児に対する不安でした。しかし、いざベビーカーで街に出かけると、駅のエレベーターやベビーカー専用車両などのインフラが整備され、段差やドアの開閉があれば周囲の人たちが必ず手を差し伸べてくれるなど、全くストレスフリーでした。しかも、ミシュラン星付きレストランでも子連れを快く受け入れてくれるので、気兼ねなく外出を楽しむことができます。もちろん、子供がぐずり始めたらさっと外に連れ出すなど、連れていく側も皆マナーと節度を守って行動していてスマートです。

【倫理観】 電車で遠出しようとして駅に行くと、改札を通ることなくホームに着きました。これでは無賃乗車も多いのではないかとと思うのですが、見ていると大多数の人たちは目的地まで正しく切符を買っているのです。デンマークは不正の少ない国として知られていますが、こうした身近なところにも民度の高さが表れています。

【少欲知足】 欲望を際限なく刺激する東京に比べ、コペンハーゲンは地味な首都です。休日の過ごし方も散歩、ピクニック、バーベキューが人気で、家族や友人とお喋りしながら一緒に時間を過ごすだけで十分満足している様子です。私も今では公園の芝生の上で家族とランチをするだけで、何と心豊かなのだろうと思えるようになりました。

【愛国心】 デンマーク人ほど国旗好きの国民はいないのではないと思うほど、日常生活に国旗が溢れています。空港で出迎える時には国旗を振り、スーパーのチラシで国旗が無数にちりばめられていれば特売の印であり、庭が大小さまざまな国旗で飾りつけられている家は誕生会の真っ最中なのです。

【合理性と効率性】 デンマーク人はいつ仕事をしているのだろうと思うくらい休暇を消化し、残業もほとんどしませんが、仕事はうまく回り、一人あたりの国民所得も日本より高いのがくやしいところです。彼らに言わせると「時間が限られているからこそ、真に必要な仕事を選別し、勤務時間内は集中して取り組める」のだそうです。

◆結び

本連載では意識的にデンマークの「光」に焦点を当ててきましたが、もちろん「影」の部分も存在し、ここが桃源郷でないことは事実です。しかし、わが国の現下の状況を鑑みると、小国の生きざまの中に国、地域、国民のあるべき姿を見出すことができるのではないかと—そんな思いを強くした2年間でもありました。こうした貴重な機会をいただいたことに感謝し、結びとさせていただきます。Mange Tak (深謝)。